WhatとHowの違いを理解する事の必要性について

インテルの元社長アンディ・グローブ氏がベンチャー企業であった競合他社の猛追に対する対策をイノベーションのジレンマで有名なクレイトン・クリステンセン氏に相談した時、クリステンセン氏は今のインテルの状況を説明し、競合に市場のシェアを奪われる可能性を注意したと言う。そこで、グローブ氏は「お前は浅はかな学者だな。だから、何をするべきか？と言う事は分かってるんだ。どうやってやるのか？と言う所を教えてくれ」とズバッと核心を突いたのは有名な話。

「何をするべきか？」と言う事と「どうやってやるのか？」と言う事は表裏一体。なのにも関わらず、「何をするべきか？」と言う事を話して、決めて、話し合いが終わってしまう事が多くあるのではないでしょうか？

「イノベーションを起こす」「多様性のあるチームを作る」「社会貢献をする」「売上を前の年と比べて、１０％上げる」と言うビジョンや目標。「何をするべきか？」と言う事は、ある程度、明確に出来ていたとしても、肝心要である「どうやってやるのか？」と言う「実行」の部分がスカスカだと、暗中模索。

会社やチーム、プロジェクトを率いる人間、それに携わる人間がやるべき事と言うのは、それを進めるために

１．具体的にどのような歩みで

２．どんな壁が想定されて

３．その壁にどう立ち向かうか？

と言う事をしっかりと考える事ではないでしょうか？

Whatはあくまで公式の一部、howを忘れないようにしましょう！